

医学部

検査技術科学プログラム ■広い視野を持つ臨床検査技師養成

取得できる学位 ★学士（保健学）

■ プログラムの概要と人材育成のねらい

本プログラムは臨床検査技師養成を基盤とし、さらに生命科学や医療技術に関連する専門分野で活躍できる人材の育成を目指して、以下の体系的な履修内容から構成される。

- (1) 臨床検査技術科学に関わる医療人としての資質を育み、また、生命科学、基礎医学および臨床医療の基礎知識と技術について、講義と実習を中心に修得する基盤的科目群。
- (2) それらを発展させた臨床検査の専門知識と技術を修得する展開的科目群（この科目群は医療、製薬、食品など関連分野の知識や保健・医学系大学院に進学するために必要な学力を身に付けるためにも有用である。）
- (3) 自ら課題を探究し、解決、発表する能力を培う卒業研究。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 生命科学、保健・医療や福祉に関する幅広い基礎知識と理解。
- b) 医学・医療に応用される情報科学や統計学の基礎知識と理解。
- c) 人体の構造や機能に関する系統的知識と理解。
- d) 人体を構成する物質や代謝に関する系統的知識と理解。
- e) ゲノムや遺伝子と遺伝に関する基礎知識と理解。
- f) 組織・細胞の形態や機能とその疾病による変化に関する基礎知識と理解。
- g) 組織・細胞の成分や代謝とその疾病による変化に関する基礎知識と理解。
- h) 病原微生物と感染症に関する基礎知識と理解。
- i) 免疫や生体防御に関する基礎知識と理解。
- j) 病気の成因や疾患と臨床検査に関する基礎知識と理解。
- k) 臨床検査に利用される機器や装置に関する知識と理解。
- l) 臨床検査における計測技術や医用工学に関する基礎知識と理解。
- m) 脳波や心電図など臨床生理検査の解析と評価に関する基本知識と理解。
- n) 超音波診断など画像検査の解析と評価に関する基本知識と理解。
- o) 臨床検査の役割や管理および法規についての知識と理解。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 人体組織の構造やその病変を解析・評価することができる能力。
- b) 人体を構成する組織や細胞の機能とその疾病による変化を解析・評価することができる能力。
- c) 人体の代謝や化学成分とその疾病による変化を分析・評価することができる能力。
- d) ゲノムや遺伝子の解析・操作を臨床検査に活用することができる能力。
- e) 病理組織細胞検査のための標本作製や鏡検および解析・評価ができる能力。

- f) 病原微生物検査に必要な知識・技術を実践的に活用できる能力。
- g) 輸血や臓器移植の免疫検査に必要な知識・技術を実践的に活用できる能力。
- h) 臨床生理検査に必要な知識・技術を実践的に活用できる能力。
- i) 超音波診断などの画像検査に必要な知識・技術を実践的に活用できる能力。
- j) 臨床検査の管理に必要な知識・技術を実践的に活用できる能力。

| 3 | 汎用的能力

- a) 科学技術における課題を分析・探究する能力。
- b) 問題解決のために必要な情報を収集し、活用する能力。
- c) 実験や実習などを通してデータを取得する実践能力。
- d) 知識や情報を整理し、報告・発表する能力。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 生命の尊厳を尊重し、チーム医療の一員に相応しい態度・姿勢。
- b) 臨床検査の基盤に立ち、自ら知識と技術の改革・進歩を実践する態度・姿勢。
- c) 修得した臨床検査の知識と技術を実践・発展させ、地域や社会の保健・医療に貢献する態度・姿勢。

■ プログラムの履修要件

- ・本プログラムは、臨床検査技師国家資格の取得に必要な教育を基盤として構成されている。したがって、臨床検査技師の資格や仕事をよく理解して入学することが望まれる。
- ・物質の分析や生命現象の解析に関する授業が多く含まれているので、高等学校において、理科総合の他に、理科科目を2科目以上履修していることが望まれる。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- ・豊かな教養と生命科学や医学・医療などの専門知識・技術を身に付け、それらをチーム医療や他分野の職種の人々との活動に生かす実践力を備えた「広い視野を持つ臨床検査技師」を養成することを主な教育デザインとして本カリキュラムは編成されている。
- ・教養科目では、豊かな人間性や医療人としての倫理観などを身に付けられるように、外国語科目、自然科学系科目、人文・社会科学系科目など30単位以上を修得することを課している。
- ・臨床検査技師国家試験に合格するのに十分な学力が形成できるように専門基礎科目や専門科目を構成している。
- ・生命科学、情報科学、基礎医学から臨床医学におよぶ幅広い知識と技術を修得するため、学内で各種の臨床検査演習・実習科目を課している。
- ・医療機関での臨地実習により、医療人としての自覚を持ち、医療現場で医療職者や被験者との良好なコミュニケーションをとれる実践力の育成が進められるようにしている。
- ・卒業研究を通じて探究力、問題解決能力、研究成果を発表する能力を修得できるプログラム内容になっている。